

第3回 北海道新幹線倶知安駅周辺整備
推進委員会 くとさんパークあり方検討部会
開 催 報 告

1 日時

2022年3月4日（金）17:00～18:05

2 場所

倶知安町役場 2階会議室

3 議事

○転車台の保存、移転、撤去について … 資料

（植田係長）

・（資料に基づき説明）

（矢吹部会長）

・本部会が、転車台の方向性が「こうあることが望ましい」で終わるか、「こうするべきである」で終わるか。今回ある程度の方向性を見出さなければならない。町としては、現駅西側くとさんパークエリアを新幹線駅駐車場として整備する計画である。実際、転車台にかかる経費の概算金額を見ると難しく思える。限られた財政の中で、簡単に言えない部分もある。現段階の想いについて確認したい。

（柏谷部会員）

・1回目2回目の部会で、転車台は現在位置から少し動かしても問題ないというイメージを持っている。費用の問題はもちろんあるが、前回部会でも話題になった移転・移設することで教育などに生かす方法を、費用も抑えるところを含めてB/C（費用便益）を検証していければ良いと思う。そうすることで、仮に撤去となっても残し方・活かし方として整理できるのではないかと。現在位置にこだわらず、撤去も含めた移転・移設というイメージ。

（矢吹部会長）

・決して費用だけの話ではないが、現実の話という側面もある。現在の町の財政状況というものも含め、かなり大きな負担になることは間違いない。

（宮武部会員）

・数字を見ると残していくのは難しい面もあると思うが、転車台の価値をどう見出していくか…記録とか記憶とか、この場所にあった意味とかを残していくという方向で考えないといけない。記録・記憶に残すことにどれだけの人が賛同してくれるかという話。今まで転車台は文化財にはなっておらず、活用もされてこなかったという現在の状況は、そういう

検討がされなかったという背景があるかな、と思う。

- ・費用を度外視するならば、移転・移設がベストと思う。新幹線駅舎から離すのは意味がない。JRの土地があり、協力いただけるような方法はないものか。町の負担も減らしながら、なぜ転車台が必要なのかという考えを大事にしないといけない。

(矢吹部会長)

- ・「どうやって活かしていくか」の問題。気持ちとして残したいという思いはあれど、現実的にはどうなんだろうというところ。

(鈴木部会員)

- ・費用を度外視したら移転・移設という考えもあるだろうが、多額の費用が求められる。「歴史」を残すのにどういう手法が良く、子どもたちにどう伝えていけるかを教育委員会と連携していくことが大切である。どうしても現物がないとできない、というものではないのではないか。活用できないと意味がない。歴史的な風景をどのような手法で残していくか。

(千坂部会員)

- ・今回の概算額は最低ラインの金額だと思われる。精査して増える可能性もあるだろう。鉄ものは錆が早いというのもあり、現況のまま活用していこうとすれば、相当な負担が発生する。
- ・幼稚園の頃から知っている転車台に、思い入れはもちろんある。残してほしいという気持ちはあるが、風土館などでジオラマなど設置するなどして、子どもたちに意識づけができるのではないか。その他にも良い方法があれば検討していきたい。

(矢吹部会長)

- ・本日13時30分より、「倶知安町文化財保護調査委員会」が開催された。その場で、転車台が議案の一つとなったので、概要を事務局から説明願います。

(小田桐学芸員)

- ・倶知安町文化財保護調査委員会は年1回の開催となっています。委員会では、費用などを考えないのであれば残すべきであるが、その前提として歴史的な「価値」があるかどうか。
 - ①転車台は文化福祉センター前のSLと一体化する
 - ②転車台を利用して普及活動を行い、価値の更なる創出に繋げる①と②を合わせて初めて価値が出る。多額の費用が必要となるのであれば難しい、という話もあった。

(矢吹部会長)

- ・実際にSLを見ていた世代には、大切に思う気持ちがあるだろうが、若い世代にしてみれば「あの丸いモノは何?」「なぜそこまでして残すの?」という意見は必ず出ると思う。新幹線開業まであまり時間がない中で、社会教育課でも鉄道の歴史を学校教育の素材として

活用し、例えば少年団と大人の連携や、ワンダーキッズの取組みなどに組み入れて理解を深めていくことが必要ではないか。仮に現物が無くなって「記録」だけになっても、「記憶」に残る取組みが大事、という意見も倶知安町文化財保護調査委員会ではあった。

- ・文化財とは「歴史上価値があるもの」であるが、転車台については現時点で情報が少ない。「大事である」というのは、今までこの場所にあったから、「記憶に残っている風景」があるからだと思う。各部会員の意見にあるように、「価値」「農業と鉄道の密接な関係を伝える仕掛け作り」をイメージして、残し方の仕組みを考えないといけない。

(清水まちづくり新幹線課参事)

- ・考え方として、どうしても現在の位置に無くてはならないのか、又は撤去することも含めて移転・移設しても良いのか、という2つの方向性の検討に絞り込むことはできると思う。そうすることで、4月以降に検討に繋げていける。

(矢吹部会長)

- ・まだ検討を積み重ねているところと思うが、現在検討されている駐車場レイアウトの必要台数などは調査のうえて現段階整理されているため、10台分減らして場所を作ろうよ、という整理も難しいだろう。将来、別の問題が起きないように整理していきたい。
- ・部会の意見を整理してみると、現在位置での現状保存は難しいという意見は多かったと思われる。費用面は押さえられるが、まだ検討していく必要はある。

(柏谷部会員)

- ・「現状保存」に絞り込めば、移転・移設するよりは現在位置に残す方が安価にできる面もあると思うが、周辺の安全面なども含めて「活かし方」を考えていけば、現在位置より移転・移設するほうが良いと思う。

(鈴木部会員)

- ・倶知安町文化財保護調査委員会での報告でもあったが、移転・移設しても、SLとセットでないと価値が見出せないと思う。気持ちとしては一体保存できると理想ではあるが、金銭面も考えないといけない。「歴史をしっかりと残す」という大きな前提があり、現物がなくても子どもたちの教育に活用できるのであれば、撤去することも検討できると思う。

(千坂部会員)

- ・新幹線駅を訪れる人は、この町では冬がメインという側面があると思う。雪に埋もれて何も見えないような保存方法であれば、意味がないかもしれない。鉄道遺産としてSLや転車台のみならず機関区などの歴史を含めて、現状のままでなく別の場所で伝えていくという方向性が大事かと思う。
- ・本当は、残したいという気持ちはある。しかし一方で、若い世代、SLの記憶がない世代になると、将来、駐車場がもっと欲しかった、除雪の際に邪魔だなあ、と考えてしまうかもしれない。

(宮武部会員)

- ・「転車台のあり方」だけを捉えると、現物保存がベストだとは思ふ。費用などを考えれば、悩ましい部分がある。
- ・歴史を残したいということで、JRに協力をお願いして「対応できない」という回答が出た後で撤去の方向性を考えてよいのではないか。
- ・もう一度、転車台の現地を見てみる活動など、やれることから始めてみるというのも必要ではないか。費用の検討は当然に必要ではあるが、転車台の「価値」をどう見出していか…。まずはJR敷地を利用できないか協議するなどできることをやってみるのも大事だと思う。

(矢吹部会長)

- ・JR北海道は経営も厳しく、難しい面もあると思うが協議してみる価値はあるかと思う。
- ・転車台について、「残して、どういう価値が生まれるか」の検討。現在位置にそのまま保存するだけでは、活用も含めて少し難しいな、という面はあると思う。移転・移設や撤去という方向性の中で、考え方を深めたいという意見が多いと捉えた。
- ・撤去するにしても、ただ単にジオラマ作って写真を残せば良いという訳ではない。
- ・方向性としては、「移転・移設」「撤去」の2つがあるということはどうだろうか。
- ・新幹線駅西側の「くとさんパーク」の活用の仕方も大きな要素である。西側の公園と、文化を創出する東側の賑わいがリンクされるようにしないといけない。社会教育課も世代を超えた取組みの中で、学び、気づき、どうやって繋げていくか…
- ・JRへの確認なども進めながら、費用面だけの議論にならないようにしつつ、「移転・移設」「撤去」のあり方を深めていきたい。

(清水まちづくり新幹線課参事)

- ・JRに打診するなど、調整を進める。
- ・併せて、整備エリア内にある桜の木についても、検討を進めたいと思う。

(宮武部会員)

- ・桜は倶知安青年会議所50周年事業で植えたものである。当時は、漠然と「新幹線が来た時に見えれば綺麗だよな」という感じであった。維持管理は青年会議所で対応しているが、木は町に寄贈したものであるため、町の考えを青年会議所と協議していけると良い。青年会議所は全面的に協力していく。

(清水まちづくり新幹線課参事)

- ・次回、活かし方、残し方の方向性を示しながら、議論をいただけたらと思う。

(矢吹部会長)

- ・4回目の部会に向けて、考え方を統一していければと思う。

4 その他

(清水まちづくり新幹線課参事)

・次回部会は3月下旬を予定しています。後日調整させていただきます。

5 閉会

以 上